

統一宣言

2017年4月1日、日本航空乗員組合と日本航空機長組合は統一を果たした。

1960年代、日本航空経営は安全軽視の「合理化」に反対する日本航空乗員組合を敵視し、運航乗務員の職場を分断した。経営は1965年に4名の乗員組合執行委員を解雇し、第二組合として運航乗員組合を設立した。さらに1970年には世界的に見ても特異な「機長全員管理職制度」を導入し機長の組合活動の自由を奪った。その結果、日本航空の運航乗務員は50年もの間ひとつの職場で乗務しながらひとつの組合で活動することが出来ない状況に置かれてきた。

そのような分断に対して我々日本航空の運航乗務員は、不断の熱意と努力をもって1973年に乗員組合と運航乗員組合を統一させた。1986年には前年の123便御巣鷹山事故という悲劇を教訓に機長組合を誕生させ、日本航空の運航の安全を守るという運航乗務員の使命を果たすべく組合活動を活発化させてきた。2010年には旧日本エアシステム乗員組合との合併を果たし2015年にはJALエクスプレスの仲間達も乗員組合に加入した。異なる企業文化を経験してきた乗員達の融合を通じて、改めて安全運航を希求する想いは共通であると確信した。

これまで日本航空運航乗務員の職場には乗員組合と機長組合が存在していた。組合は分かれていたが、それぞれが安全運航の堅持と組合員の権利と地位の向上を目指して多くの面で協力しながら取り組んで来た。一方で経営破たんに伴う人員削減施策が進められる中で、ひとつの職場に二つの組合の見解・方針が示されたことで職場は混乱し、結果としてそれまで培ってきた職場内の信頼感を大きく損なうことに繋がった。我々はこの苦い経験によって、改めて「ひとつの職場に、ひとつの組合」という思いを強くした。それは、それぞれの組合員のそれぞれに違う思いを「ひとつの組合」で議論し「乗員の総意」を形成していくことが、職場内の信頼感を再構築するだけでなく、労使間の問題を解決することに繋がり、ひいては運航の安全を守ることに大きく寄与するからに他ならない。我々は過去と決別するのではなく、過去を礎として新たな未来を築いていく。

日本航空運航乗務員というひとつの職場を代表するひとつの組合として、我々日本航空乗員組合はこれから新たな一步を踏み出して行く。経営に対して一対一で対峙することで、労使対等な立場で交渉を行い、双方が歩み寄りながら結論を導き出すことを目指す。そしてその過程で労使の信頼関係を築き上げて行く。また、安全運航の基盤となる明るく自由闊達な職場を築き、さらに職場環境の改善と労働条件の向上を目指す。

我々はこの統一を機に、日本の航空界の先頭に立って航空の安全を守り、運航品質の向上に努力していくことが、自分たちの社会的責務であるとの認識を新たにし、これからの活動を進めて行くことをここに宣言する。

2017年5月10日 日本航空乗員組合